

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム 花の里 第1グループ		
所在地	諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	平成29年2月12日	評価結果確定日	平成29年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=4270401369-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、緑あふれる自然環境の中、健康長寿を目指し、人と人との関わりを大切に笑顔で安心・安全に暮らせるように支援しています。
また、入居者に添った24時間シート・私の暮らし方シートを作成し、個人個人のペースに合わせた介護サービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームが自治会に入り、地域で行っている秋祭りや清掃活動にも積極的に参加している。地域の消防団とも連携し定期的な訓練も共同で行っている。地域の医療機関と連携し、グループホーム内での看取りの体制を整えており、職員も安心して支援できる体制を取っている。利用者の動作に合わせてトイレの手すりが前方や側方に設置していたり、浴槽の出入りが困難な方も座ったまま安心して入浴ができる特殊な浴槽が整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際、日勤者と夜勤者で理念を唱和し、地域密着型サービス事業の役割を認識・理解し理念に基づいたケアを行っている。また、理念をホールに貼り、新人職員の入社時に会議の際に管理者より説明が行われる。	利用者の計画書の中に理念を掲げている。管理者、職員が理念を共有し、一人ひとり日常生活に活かせるよう支援が行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	専門学校の実習の受け入れや職場体験、ボランティア等を通して様々な方と交流をする機会を作り地域との繋がりに努めている。また、消防団との防火訓練や地域の草刈り等にも参加している。	自治会に入っており地域の秋祭りや清掃活動に参加している。グループホームが地域の一員であるという意識が高く積極的に活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践を踏まえて、地域の研修会に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。実習生の受け入れ等にも積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、家族や民生委員等に出席して頂き実績報告や事業報告を行っている。また、行事など毎月、議題を決め報告を行い、意見や要望等を受け、今後のサービス向上に努めている。	行政や地域住民の方の参加があり、運営推進会議を通じて施設内情報をその都度報告している。それぞれの立場からの意見を参考にし、避難訓練時や日常生活の改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の班に入っており、参加できる行事には積極的にさんかしている。施設での行事等は情報を発信するなどボランティアに来て頂いている。家族との交流も家族会等にて取り組んでいる。	行政の委託施設があり日頃から連携し共に支援を行なう体制を整えている。利用者のあらゆる状況に応じて行政関係各所の連携を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には積極的に参加し、身体拘束については、2ヶ月に1回会議を開き、職員間で話し合いをし意識付けを行っている。	内部や外部研修に積極的に職員を参加させ、身体拘束をしない知識の向上や現場で活かすことができるよう、取り組んでいる。医師と介護職の連携もしており、日頃の介護に活かすよう工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学んで知識を職員間で共有し、虐待防止に努め、ケアを実践していく中で虐待について理解を深める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされる利用者、入居者に対しては説明を行い又、研修などに参加し日々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時又は、改定時は十分に説明を行い納得をして頂き捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見、要望等何かないか尋ね毎月のミーティング等で検討し玄関には意見箱を置くなどいつでも記入出来るようにしている。	定期的に家族会を開いている。今回は利用者の日常生活を画像にし、日常生活が伝わるようにした。家族からの意見を利用者の生きがいにつなげるよう工夫して取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の全体ミーティング、月1回のGH合同ミーティングで職員の意見・要望・提案などを聞き代表者や管理者と話す機会設けている。	法人全体やグループホーム内での職員会議を定期的に行なっている。利用者に対する色々な提案が職員からあり、環境整備や一人ひとりの生活に活かせるよう反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回代表者や管理者や職員などGH合同ミーティングに参加し各自の向上心や働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や外部で開催される研修に積極的に参加し、本人が希望する研修会にも参加できるように環境作りを行い職員1人1人のスキルアップと意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や研修等で交流をもつ機会を設け、サービスの質の向上にはげんでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事などある場合は、目線を合わせ話を聞いて対応し、本人の思いを理解する事で信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とサービス利用内容を相互に確認し話し合いを行いながら関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思い、状況等を把握し必要としているサービスを把握、提供して信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き理解しながら共に過ごし、支え合う関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の状態報告をしている。月1回家族宛にお便りを出し、家族とともに本人を支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等に知人や幼馴染の方との交流する機会を作っている。	前の職場の人や友人が訪ねてきたり、馴染みの美容室へ連れて行ったり支援をしている。親しい方や家族に年賀状を出したり電話をかけたたり、馴染みの関係が継続できる支援を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や相性を把握し、職員が懸け橋となり、利用者同士の交流の場を作り、関係が円滑になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し退去されても、相談により、幅広い情報を提供、共有し適した他の事業所との連携調整を行う等、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図る中で、本人の意思を確認し希望にそえるよう意向の把握に努めている。困難な場合には、家族より情報を頂き職員間で検討、話し合いを行っている。	"私の暮らし方ノート"を作成し、利用者や家族の思い、意向を記録している。日頃の職員の気づきも合わせて記録し、半年ごとに更新している。日常会話やしぐさ、表情から、利用者の思いを汲み取るよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時点で家族より、これまでの生活歴や暮らし方、好みの情報を得て、私の暮らし方シートや24時間シートにより職員全体が把握をし、ケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時々状態を把握する為に、本人の行動、表情、言動に注視し状況に応じた対応を行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ日々の生活状況、状態を把握し、定期的に行っている会議の中で見直し評価を行っている。	日々の支援の中での気づきや利用者の意向を踏まえ、ケース会議において、介護計画の評価、見直しを行っている。個別のプランを職員全員が確認出来るよう、生活記録の中に記す工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自の日々の生活記録を個別の項目ごとに、水分量、食事摂取量、本人の状態、気付いた点などを記録用紙に記録し、申し送りに活用したり、職員が常に確認出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、ショート希望があれば受け入れ対応し支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや園児との交流の受け入れを行い、地域の町内会、消防署、民生委員と協力をしながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時の時は、かかりつけ医に連絡を行い、連携をとっている。二週間に一度往診に来られている。	協力医の他に、希望により、入居前のかかりつけ医へ通院している。協力医による往診も行われている。家族が、通院時に同行できない場合には、職員が対応している。その際、必要があれば、家族に、電話での報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や表情の変化があった際、速やかに医療連携看護師に報告し判断してもらい、かかりつけ医に連絡し往診してもらったり、受診日に報告したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の状態や支援サービス等に関する情報を提供している。退院時には、家族、医療機関と話し合いをもって速やかに退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心して納得した生活ができるよう各関係者と連携を行い、本人、家族の気持ちを大切にしながら医療連携、かかりつけ医と連携を図りながら支援する。家族が希望すれば看取り介護についての確認書の同意も家族からもらっている。	24時間対応できる、協力医療機関との連携が、確立しており、看取りの実績がある。入居時に”重度化した場合の対応に係る指針”について、説明を行っている。その時が来た場合には、再度、家族に医師からの説明をしてもらい、同意を得ている。家族用の予備の部屋も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成したり研修会に参加し職員間での情報の共有に努め質の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	月1回、地震想定、避難訓練を行い災害防止に努める。また、消防署との合同訓練も行っている。	年12回の避難訓練を実施している。持ち出し用として、利用者の顔写真付きのフェイスシートや、一覧の名簿を備えている。わかりやすい避難経路や、職員の連絡体制をホーム内に掲示している。緊急時に使用出来る井戸水があり、プロパンガスや薪も備えている。	3日分を想定した食料を法人内の厨房に備えているとのことであった。しかし、様々な災害を想定し、対応ができるよう、事業所内に食料の備えが必要と思われる。今後、検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者に応じた言葉かけを行い、本人の意思を尊重したケアを行なっている。不穏等の時にも、本人の人格を損なわない様に言葉かけを行っている。	利用者の意思を尊重し、人権を損ねない言葉かけを行い、支援を行っている。職員は接遇研修を行い、個人情報の保護に努めている。また、個人情報の保護において、入職時に誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者本人と同じ目線に立ち、傾聴や言葉かけを行っており、本人に自己決定して頂く様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、その日その時の各利用者本人の気持ちや思いを大切にケアを努め、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者本人の好みや意思にそった身だしなみやおしゃれをして頂けるよう支援している。また、定期的に理髪師より散髪して頂き、清潔感を保持している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態を見極め、可能な範囲で片付けや準備を手伝って頂いており、そういった役割を持って頂くことで、日常生活にも活気をもたらしている。	法人内の栄養士が、献立をたて、バランスの良い食事を提供している。利用者は、下ごしらえや、食器拭き、下膳等を行い、職員と共に食卓を囲み、楽しい食事となるよう、心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、個別にその日で記録し把握に努めており、職員は都度相談しあい利用者本人の状態や意思に応じた食事形態で提供・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際、職員が付き添い、見守ることで利用者一人ひとりの状態やペースを把握し、応じたケアを行い、清潔保持を努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人日誌又は排泄チェック表に基づいて排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い失禁を減らすよう支援を行っている。	日中は、出来る限り、トイレでの排泄が行えるよう、排泄リズムを把握し、声かけや誘導を行っている。トイレには、横の手すりに加え、前面にも、倒して使用できるバーが設置しており、無理なく排泄が出来るよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに入居者一人一人の排泄パターンを把握し適度な運動を行い、飲食物も乳製品を中心に水分チェック表を確認しながら予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外毎日入浴は実施している。夜間の入浴は行っていないが、本人の希望や状態に応じて入浴できるように支援している。	利用者の希望やタイミングに応じ、週6日の入浴を行っている。希望により同性介助を行い、個室を基本としている。座ったままでも、入浴可能な浴槽を、整備している。季節により、ゆず湯や牛乳風呂など、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や希望に応じて対応し、安心して眠れるように支援している。また、日中においても状況や状態により居室で休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルや個人ファイルに薬の内容、処方箋に目を通し把握している。また、薬変更時等は連絡ノート等に記入し、スタッフに対し情報の共有を図っている。症状の変化にも対応できるように観察を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた役割や手伝い(食器拭きや洗濯物たたみ)等出来る事を行ってもらい毎日の活動の中で、共同作品や散歩を行い楽しみにつながるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や季節に応じての行事ドライブ等季節ごとに本人の希望を聞き、外出計画を立て外出支援を行っている。	季節により、ドライブや初詣、お花見などに出かけている。家族の協力で、食事へ出かけている。移動図書館や、移動販売車の利用も行き、少しでも室内から外へ出かけられるよう、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は職員で管理し、外出時等、自分で支払えるよう職員が支援しながらお金を手渡す等工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中お見舞い等は、定期的にやり取りをし、家族等から電話がかかってきた時は、入居者に取り次ぎおこない支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物等緑を多く取り入れ、飾り物や共同作品を通し季節感がでるような工夫又は、飾りつけを行っている。室温・湿度にも注意し居心地の良い環境作りに努めている。	観葉植物や、季節の生け花、利用者の作品を飾り付けるなど、季節感が感じられ、居心地のよい空間となるよう努めている。窓が大きく、自然の光が入り、明るく、外の自然が感じられる空間となっている。加湿器が設置され、過ごしやすい配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール又はリビングには、ソファや椅子が各所にあり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物を入居者の家族に持ち込んでもらい居心地良く過ごせるよう環境を整えている。	本人の希望により、ベッドや、家具の持ち込みに対応している。家族の写真や位牌など、利用者が心地よく過ごせるよう、環境を整えている。使用していない物は、トランクルームを設け、預かりにも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況や能力に合わせて洗濯物たたみや食器拭き等、安全に配慮しながら行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム 花の里 第2グループ		
所在地	諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	平成29年2月12日	評価結果確定日	平成29年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.kougensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=4270401369-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた地域環境を活かし入居者一人ひとり個人に合った生活を尊重し「心」を通した「信頼」関係を築けるように努め支援している。
また、事業所には防災設備が充実しており避難訓練に力を入れ福田町消防団や消防署に協力を頂きながら防災・防火意識を高めている。
同法人内にある園児達との交流を通して子供から高齢者まで触れ合える機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識をふまえた理念に基づいてケアを行い、また定期的に職員間(管理者含む)の意識確認を行い理念の共有化を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に保育園や小学校との交流会や、秋祭り等の行事を企画したり、学生ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の交流会等を通し、認知症の方々と触れ合ってもらうことで、認知症に対する理解をしてもらえるよう図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の実績報告や事業報告を行っている。感染症対策など、その時期に合わせた議題をあげて話し合い、サービス向上のために活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年6回ある運営推進会議では、必ず市町村から代表者に出席をしてもらい、取り組みを伝えている。又、家族会にも出席をもらい、ご家族との交流も図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県での身体拘束の研修には積極的に参加して、身体拘束に関しての知識を深めている。又、定期的に身体拘束防止の委員会を開き、職員同士で話し合い、ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にすすんで参加することで虐待についての理解を深めている。又、職員同士で相談や話し合いを密に行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	退去に成年後見制度を利用された入居者の事例を元に、制度に関しての理解を深め、日々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、説明を十分に行い、利用者やご家族の納得を得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会の際には要望等はないか尋ねている。出た意見や要望はミーティングにて持ち込み、話し合い後、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度のミーティングにて、職員の声に耳を傾ける機会を設け、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修に積極的に参加してもらうことにより、スキルアップを図っている。又、職員間で密に相談し合い、互いにケアの力量を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修に積極的に参加し、同業者との交流や意見交換の機会を設け、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と密にコミュニケーションを図ることで、信頼関係を築き、要望や不安に思っていることを受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会などの際に、サービス内容を確認し合い、その際に出た不安点や要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、ニーズの把握、求めている支援の見極めを行い、サービスの利用へつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、本人の自己決定の尊重や、できることの把握を行い、共に暮らしを支えあっている関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には本人の日々の様子や現状の報告を行い、要望に耳を傾けている。又、月1回のお便りを出して、良い関係が作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活習慣を尊重しながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、環境を整えて、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入っているコミュニケーションを行うことで、孤立の防止を行い、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、本人または家族と連携し、これまで共有してきた情報や関係性をもとに相談や支援業務を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密接に行い、本人の意見確認、機能を聞きとりやすくしている。コミュニケーションを図りづらい場合は本人の立場に立ったケアを実施できるよう職員間で協力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人や家族に必ず聞きとりを行い、職員全員での周知を行い、現在の生活環境に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常の様子を密に観察し、現在の状況を把握するようスタッフ一同努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活の様子を把握し、家族の要望も反映させながらケアプランの見直しや評価を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子の中で気づきや、その他ケアを行い実践した結果を記入し、職員間で確認し話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じショートステイの受け入れを行い、本人や家族の希望や状況に応じて支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、消防署等と協力し合い、行事の際にはボランティアや園児との交流の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に往診に来られている。家族が受診や通院が難しい場合は職員が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異変があった場合は報告、相談し必要であれば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人の状態等の情報を提供している。退院時には医療機関、家族と話し合いを持ち、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時等に看取りについての方針を説明している。主治医より看取りと判断された場合は家族、医療連携従事者、職員と話し合い、今後についての確認、情報の交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急用マニュアルを作成し、職員間で周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	月1回、避難訓練、地震想定での訓練を行っている。また、消防署との合同訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を損ねないように言葉かけを行い、会議の中でも言葉かけに対する話し合いをしている。入浴や排泄に関してもプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が気軽に職員に要望など言えるような雰囲気づくりに努めており、本人の目線に立ち、傾聴し自己決定しやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに合った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや愛着のあるものを家族や本人から聞き取り入れることで、その人らしいおしゃれができるように努めている。定期的に散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の状態に合わせ可能な限り、一緒に片付け、準備を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の水分量、食事は個別に記録し把握している。本人の状態に応じた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際は職員が付き添い出来る限り本人にしてもらい、不十分な所は介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの生活のリズムに合ったトイレ誘導を行い、失禁を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し飲食物の工夫や運動を促したり対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに応じた入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じ自室で自由に休んでもらいつつ、日中の活動も促して生活のリズムを整え、ゆっくり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に目を通し把握している。職員管理の下、確実に服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、好きなことや出来ることを把握し、それに応じた役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人や家族の希望を聞き、家族や職員と共に外出できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、自分で支払えるように職員が手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が困難な時には職員が代筆したり電話をかけたりと間に入り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたしつらえを行い、環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地良い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた物や好きな物を持って来てもらい、本人が心地よく過ごしてもらえるような環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かしてもらえるよう洗濯物たたみや食器拭きなど、危険のないよう工夫しつつ共に行っている。		